

はしの なし

第一稿 港橋ものがたり

VOL.1 (平成30年11月)

発行：道路局橋梁課

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。栄えある第1回目は、港橋について。

港橋は、市庁舎から一番近くにある横浜市が管理する橋です。

そんな港橋には、どんな歴史があるのか。現地に付いている紋章

は何か。はなしていきましょう。[\(本文青字は地図リンクになっています\)](#)

1 港橋の現況

はじめに、[港橋](#)がどこにあるかご存知でしょうか。

下図のとおり、横浜公園と横浜市庁舎の間の通りをJRがある方面に進んでいって、首都高速横羽線と交差するところに架かっています。

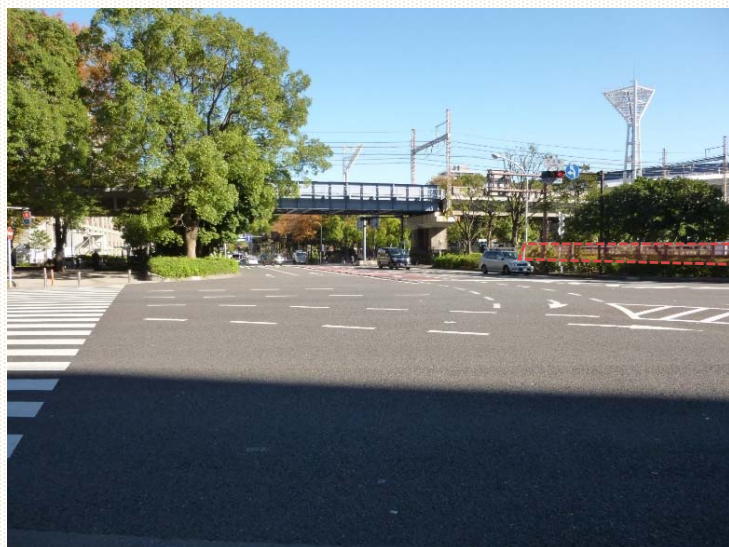
港橋は人道橋となっており、港橋と連続して橋ではない車道部があるため、日ごろからここを利用していたとしても、港橋があることに気づくことは難しいかと思います。



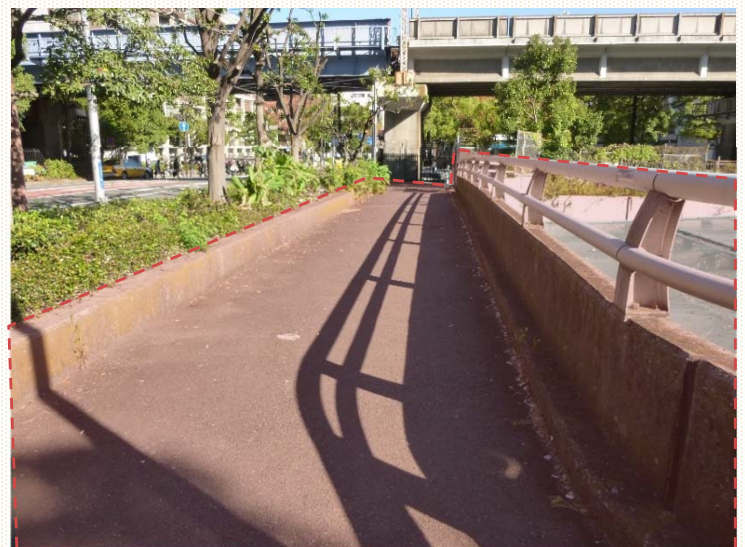
港橋周辺の案内図



横浜公園方面から見た港橋、破線部が港橋



不老町交差点方面から見た港橋（破線部が港橋）



不老町交差点方面から見た港橋（破線部が港橋）

2 港橋の歴史

港橋（みなとばし）が初めて架けられた年月や構造形式については、残念ながら明らかになっていませんが、古地図から推定すると1877年（明治10）までに派大岡川に架けられたと考えられます。

その後、1893年（明治26）に架け替えが行われました。橋の形式はプラット・トラス橋といい、三角形を基本構造とした、その集合体で構成する構造形式であるトラス橋の仲間のひとつです。神奈川県の技師であった野口嘉茂氏が設計しており、他にも西の橋、吉浜橋を担当していたようです。

ちなみ野口氏が設計した西の橋は、現在南区の浦舟水道橋にてトラス材が再利用されています。これについては、また別の機会で紹介します。

a



b



左図は「横濱明細全圖」（1864）中央図は「改正横濱案内繪圖」（1877）である。左図にはなかった港橋が中央図ではあることがわかる（右図）。

c



1893年に架けられた港橋。橋下は「派大岡川」と言う河川

d



奥の建物は2代目横浜市庁舎（1911～1923）で、7代目である現市庁舎と同じところ。左の橋が港橋

e



【参考】野口氏が設計した吉浜橋

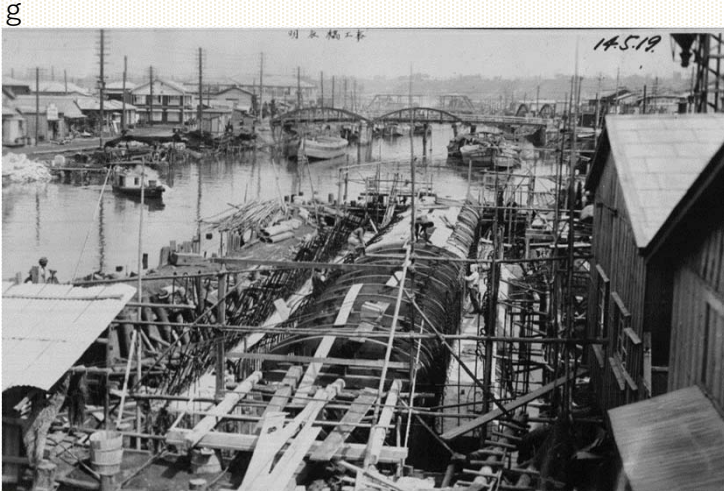
f



【参考】野口氏が設計した西の橋

3 関東大震災

1923年（大正12）9月1日に発生した関東大震災により橋梁を含む多くの土木施設が崩壊しました。その後の復興事業で多くの橋は架替えられました。港橋は修繕のみで架け替えられませんでした。



羽衣橋の架替工事写真（大正14.5.19）。奥に豊國橋が崩壊しており、さらに奥にトラス橋の港橋があるのを確認できる



震災による豊國橋の被害写真。橋台や橋脚が傾き、桁材が崩落していることが確認できる。港橋は手前にあると思われる。

4 戦後

1945年（昭和20）5月29日に横浜市中心地域に対して行われた爆撃（いわゆる横浜大空襲）により、多くの木造家屋が焼失しましたが、鉄筋コンクリート・鋼製の震災復興橋梁の多くは焼失することはなかったと考えられます。

戦後、連合国軍の接収が行われましたが、それに伴って港橋が架け替えられることはありませんでした。



1955年（昭和30）頃。手前から吉浜橋、花園橋、港橋が並ぶ



大空襲直後。左手前は桜木町駅（1945年（昭和20）6月）



左図の橋梁位置・名称

引用 g：東京大学社会基盤図書館所蔵 h：土木学会[編],大正12年関東大地震震害調査報告書,土木学会、1926年発行
i：横浜市民局市民活動部広報課広報センター、「市民グラフ ヨコハマ No.22」、昭和52年8月22日発行
j：横浜市民局相談部広報課広報センター、「市民グラフ ヨコハマ No.15」、昭和50年8月15日発行

5 昭和30年以降

関内地区は1952年（昭和27）11月に接收解除となり、その後、昭和34年の横浜開港百周年記念事業として、横浜市役所（現市庁舎）の建設が行われ、1964年（昭和39年）5月に国鉄根岸線（現JR）の関内駅が開業し、景色は一変します。さらに、1965年（昭和40）に横浜市六大事業が策定され、このうち高速道路網計画（首都高速道路）が派大岡川を利用することが決まったことで、派大岡川は廃止となり、トラスの港橋も撤去されます。



1961年（昭和36）8月頃。JR関内駅は建設中。左手が港橋

m



廃止前の港橋

n



取り壊される港橋（1973年（昭和48）6月）

6 現在まで

現在の港橋は1982年（昭和57）に首都高速建設に伴い架け替えられた人道橋です。派大岡川に架かっていたほかの橋梁は港橋を残してもうありません。高欄には、「港橋」・「みなとはし」と書かれた橋名板と花の紋章4枚がついています。実はこの紋章、トラス橋であった港橋の鋼材一部なんです。橋自体は36歳ですが、花の紋章はなんと125歳。これからも歴史ある資産として残せたらと思います。

o



港橋の高欄（現在）、「港橋」と書かれた橋名板と花の紋章が取り付けられている

p



1939年（昭和14）頃。港橋から横浜公園方面をみている。橋門構（写真上部）の鋼材部が残されている

引用 l：横浜都市発展記念館、「ハマ発Newsletter第8号」、(<http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/hamaN/hamaN8.html>)

m：公有水面の占用に関する施設の概要、橋梁課所蔵

n：横浜市史資料室[編・発行]、「昭和の横浜」、2009年6月2日発行 o：橋梁課所蔵

p：横浜都市発展記念館[編]、「図録横浜にチンチン電車が走った時代 まちの主役！路面電車」、2012年1月出版